

片貝川南又谷にてアサマシジミを確認

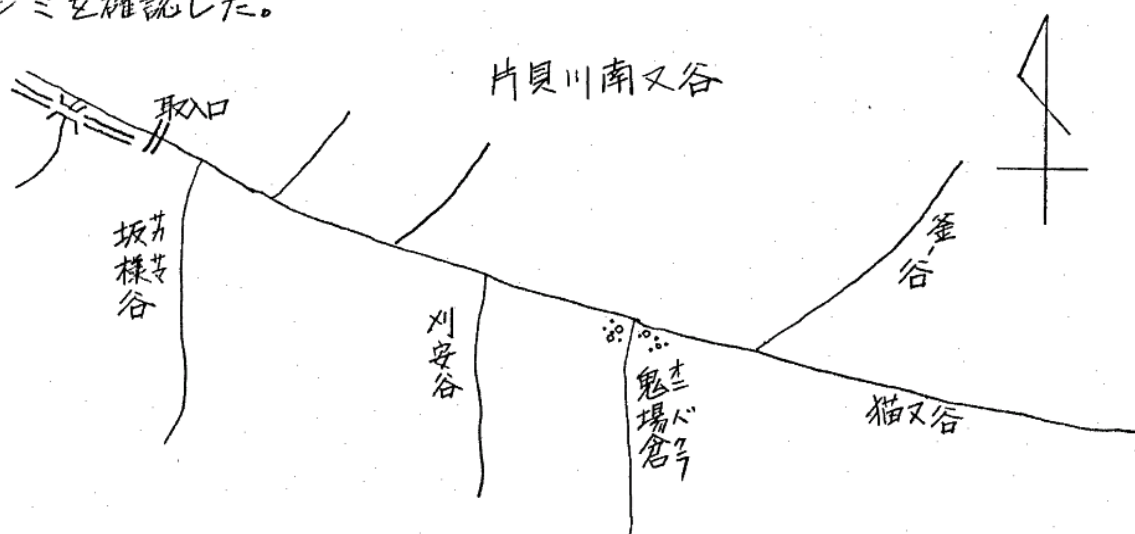
——松井 正人・野中 勝——

1982年5月30日、蝶談会ワングルコンビは、片貝川南又谷（富山県魚津市）において、エビラフジレイワオウギよりアサマシジミを確認した。

1980年、早月川ブナグラ谷（富山県上市町）にアサマシジミの生息が確認され、それは尾根一つ越えた所にアサマシジミが生息せぬはずがないと、野中・松井組は片貝川南又谷に入り込んだ。

南又谷は取水口まで道がついている。ここより、左岸に道の様なものがついていて、途中、何度か巻き道をするはめになる。一時間半位歩くと、草の繁茂した河原にポツリポツリと大きなエビラフジが現れるが、アサマシジミは確認できなかった。

更に、三十分位進むと、石ゴロゴロの広い河原（鬼場倉出合）に出る。この河原に、まだ小さなエビラフジがポツポツあり、これよりアサマシジミの幼虫を確認した。ここより本流を遡らず、左岸の支流（鬼場倉）を遡るとイワオウギがあり、これからもアサマシジミを確認した。



石ゴロ、ゴロゴロの広い河原の半分は、まだ雪に覆れていて、雪の融けた所よりエビラフジが伸びていた。エビラフジの株は多数あり、大きな株であったが、草丈はまだ30~50cmと小さく、1~3令幼虫がたくさんついていた。

鬼場倉も10分位遡ると、そこより上流はすべて雪で、そこまでの石ゴロ河原にまだ小さい(大きくても草丈20cm位)イワオウギがポツリポツリと7株程あり、この内の3株より2~3令幼虫を6ex確認した。

墮ちたオオミドリ

野中 勝

翔にセフ採卵難易度^{*1}などという、いい加減なランクを発表したとたん、昨シーズンは2種がランクを落されてしまった。

一種はオオガシジミで、嵯峨井、松井両氏らの調査により、本種はEか、せいぜいDランク相当であることが判明し、これは既に報告されている。^{*2}

筆者はもう一種、オオミドリシジミについて、Eランクが適当と考える位に普遍的に分布し(採卵調査は金沢市周辺のみしか行っていないが、成虫の記録^{*3}から考えても本種が能登地方も含む県下全域に産するのは明らかである。)、かつ採卵も容易であることを確認したので報告する。^{*4}

採卵法は時国氏の解説通りで、これまで追認できなかったのは、誰も真面目に捜そうとしなかったからにすぎないと思われる。

蛇足になると思うが、本種の採卵は、コナラのある所ならどこでもよいと思われ、薄暗い所に生えた、いじけて生きているかどうか分からない様なコナラの小木(30~50cm位)の、主幹(指の太さ位)からの枝の分岐点付近を捜すことがポイントである。

以下に記録を示す。いずれもコナラからの記録で、1~2時間の採卵の成果である。

1981年11月29日	野田山一平栗間	24卵
1981年12月5日	医王山(二俣からの林道)	5卵
1982年1月24日	夕日寺	12卵
1982年2月28日	湯涌温泉	25卵

*1 翔 No. 25

*2 翔 No. 27

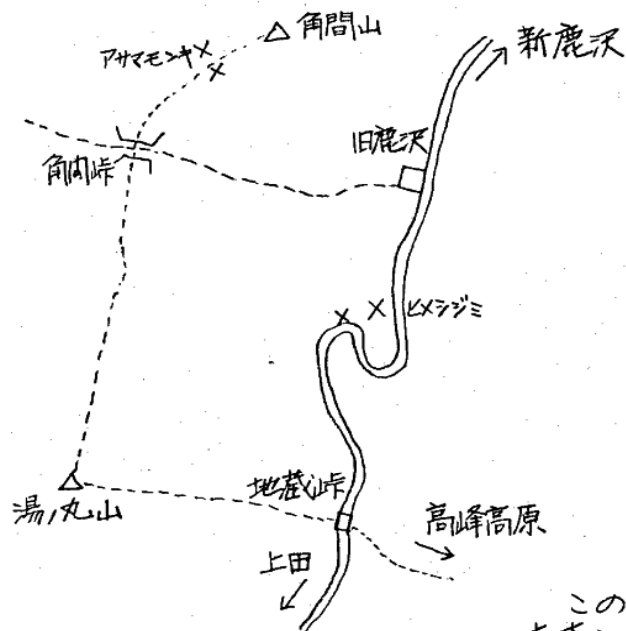
*3 翔 No. 5

*4 ヒクリバチ No. 26, 27

群馬県角間山でアサモンキチョウを確認

吉村 久貴

1981年7月18日、群馬県嬬恋村角間山でアサモンキチョウを確認したので報告します。湯丸山一帯は、アサモンキチョウの既産地としては有名であります。^{*1} 角間山に至る登山道は、旧鹿沢の国鉄の



の宿舎横から山に入り、徒歩40分ぐらいで角間峠に着きます。ここより、角間山の急斜面を10分ぐらい登ると、クロマキノギが一面にはえたところに出ます。クロマキノギは、ここから角間山頂にかけてずっとはえていました。時々、姿を見せるアサモンキチョウに混って、モンキチョウも飛び回ったり、花で吸蜜したりしていましたが、アサモンキチョウの方が白っぽい黄色で小形で弱々しく見えることより、だいたいの見極めはつきました。

この他、山頂付近では、キアゲハ、オオミドリシジミ、キマダラヒカゲ、ヒオドシチョウなどが見られました。

また、旧鹿沢と地蔵峠を結ぶ車道沿いで、ヒメシジミが大発生していました。目撃されると思われたミヤマシロチョウは、その影すら見ることができませんでした。

*1 日本産蝶類大図鑑 藤岡 知夫 講談社(1975)

汗まみれ、花まみれのカンアオイ採集

岩下 泰子

5月8日、ギフチョウの採卵に鶴来町上福岡へ……。

ゼフの初めての飼育でイモムシさんのかわいさに、すっかりトリになっただけですが、それも蛹になって動いてくれないから毛の足りなくて、何でもいから飼ってみたい、飼ってみたいーというわ

けで出かけたのですが、果たして見つかるのかどうか自信はなかったのです。

とにかく、カンアオイ、カンアオイと捜し回って、葉の裏を見て歩いたのです。すると、アッタ~~~~真珠みたいな美しい卵が、きちんと並べられていました。感激。9卵塊発見、うち、5卵塊(2卵、3卵、9卵、9卵、9卵)を採集しました。

けれども、その後頭に浮かんだのが、うわさに聞く“カンアオイ地獄”とやら、もしかして半分くらいにした方がよかったのかも……などと考えながらスコップ片手に、さらにカンアオイ、カンアオイと捜し回ったのであります。木の根や石コロがじゃまになって掘るのに一苦労。汗と泥にまみれながらも、初めは車へ運ぶのに、できるだけ楽な様にと、杉林の入口の方を捜していたのですが、欲が出てきてさらに大きな株を求めて興へ興へと……。

わが家の庭にうまく付いてくれないといけないからと思い、土をできるだけ多くつけて掘ったので、一株ずつれが運ばなくて……。

それで、車と杉林を5往復。5株のカンアオイをトランクにつめて帰ったのであります。あ——疲れた。

これで、わが家の庭には、前日、山草好きの母が採ってきたのを合わせて、8株のカンアオイが植えられたのです。それと、母の友人のこれまた山草好きな方にいただいたフタバアオイが、2鉢あるのですが……。でも、やっぱりこれだけでは足りないのでしょうね。——。

これからは、がんばって、カンアオイ、カンアオイ……。

憧れのブッドレア

竹谷 宏二

もう何年も前になるが、東京神田の古本屋で浅田孝二著の「愛蝶記」を手に入れた。その中に“ブッドレア始末記”と題した章がある。

ブッドレアとは、フジウツギ科、フジウツギ属の園芸花木の総称で多くの種がある。その中で最も一般的なのが、*Buddleia davidii* (ブッドレア・ダヴィディー)で中国が原産地のものである。

初夏から晩秋までの長期にわたって樅の穂先のような形をした美しいふさ状の花をつける。この花は非常に芳香が強く、多数の蝶が吸蜜に訪れることで知られており、英名はその名もズバリ、Butterfly-Bush という。

このことを知って以来、私のブッドレア捜しが始まった。欧米で

は公園緑地などの重要花木として多数植えられているというが、なぜか日本ではあまりみかけない。そうこうするうちにある園芸品種カタログの中によろやくその名をみつけることができた。花の色も白、ピンク、紫と色々あるらしい。苦労して見つけたわりには比較的安価である。(後でその理由がわかった——サレ木が極めて容易)性質は非常に強く、耐寒性もあり作り易い。肥沃な土地では大きくなり、あばれ出して困るくらいである。

我家にも本年からよろやく待望のブッドレアが、本格的に花をつけ始めた。本当に蝶が集まるのか?初めは半信半疑であったが、この花の威力はさすが、各種のアゲハ、シロチョウ、セセリチョウ、タテハ類が次々と吸蜜に来る。

水田が近いせいであろう、イチモンジセセリの発生のピークにはうんざりする程ビッシリと群っている。田んぼの真ん中にある我家でもこれくらいの蝶が集まるのだから、山手の高級住宅の庭に植えれば、さぞかし多くの蝶たちが集まることであろう。

しかし、いかんせん、わが安月給の身分では当分(一生?)は、いなかの駄蝶を見ることで、がまんせねばなるまい。

〔追記〕

ブッドレア入用の方は御連絡下さい。苗木をさしあげます。

TEL. 0762-76-6949

フジミドリ採集記

松田 俊郎

1982年6月20日(日)、午後から医王山へ出かけた。これは、前日、嵯峨井氏から、既にジョウザン、アイノなど医王山のゼフは、一通り発生しているという情報を得たからである。今年は、どうもゼフの発生が早いようだ。

雲の間から薄日のさす、ますますの天候であった。クリの花も、既に開いていて、その花にジョウザンやエゾミドリの雄が吸蜜に来ていた。さすがに、まだ発生の初期という感じで、緑色があざやかである。

今日は、何とかフジミドリを採りたい。フジミドリ……この蝶のために、もう何度、ムダ足を踏んだか知れない。成虫採集だけでなく、採卵にも、もう何回か挑戦したが、その成果はといえば、鳥取県大山で採った1雄のみ。野中氏の言を借りれば、まさに“涙のフジミドリ”であった。

フジミドリを狙うなら、とにかくブナの生えている所まで行かなければ話にならない。その点、医王山は、車でブナ帯まで行けるの

で有難い。

そろそろブナが目につき出した。もう菱広峠の近くであった。下草から一本のブナの木に飛びついた蝶がいた。ジョウザンヤエゾにしたろ小さい。フジミドリかも知れないと思いネットを振った。

ネットに入れた蝶は、まさに新鮮なフジミドリの雄であった。あこがれの蝶が一頭採れたので、ここで粘ってみることにした。ブナの木の新梢をしばらく見上げていると、どこからともなくフジミドリが現れ、ブナの新梢を葉にすれるように飛びながら、次第に遠くへ飛び去っていく。

何分かに一度、飛んできては、またどこかへ見えなくなってしまう。果外、低いブナなので何とか継ぎ竿は届くのだが、飛ぶのが速く、この飛んでいる時を狙い、継ぎ竿を振ってネットインするのは至難の技のように思われた。

また飛んできた蝶をしばらく目で追っている、たまにブナの新梢にとまるではないか。ただし、このとまるのは、ほんの2~3秒というところで、またすぐに飛び始める。この数秒が、ネットを振れる唯一のチャンスだと思った。

時間は、午後4時過ぎ。どうも今がフジミドリの活動する時間のような。飛んでいる時の様子は、ウラジロミドリを思わせる。羽の輝きは、緑というより空色という感じだ。

結局、この日は、ブナの葉に静止した時を狙い、フジミドリ7雄を得た。暮れゆく空をバックに無数に飛ぶアカシジミを見ながら、私は、満足感にひたっていた。

追記——フジミドリ雄の活動習性について

フジミドリの雄は、ブナの木の新梢をかなり速く飛び、低い位置へは、ほとんど降りてこない。一本のブナの新梢を飛ぶと隣りのブナの新梢に移り、またその隣りのブナというように飛び、何本ものブナの新梢を巡回飛翔しているように思われた。

活動時間帯のピークと思われる頃には、2頭のフジミドリが、もつれあって飛ぶ様も見られたが、追飛は、アイノミドリやジョウザンミドリのようにとははざりせず、もつれあってもすぐに離れてしまうことが多かった。

この日（6月20日、晴れ時々くもり）フジミドリは、午後3時を過ぎる頃から活動を始め、午後5時半を過ぎる頃には、ほとんど飛ぶなくなった。

〔その1〕

この蝶が、そのすまとおった羽をひらひらと優雅に上下させ、花に戯れる様は、何とも言えない魅力があって、私の大好きな蝶の一つなのです。決して華やかかな美しさはないけれども、なんてやさしげで可憐なのでしょうか。

本年(1982)5月5日、昨年ウスバシロチョウを若干採集した金沢市の瀬へ出かけました。ウスバシロチョウは、人家の裏や畑、田んぼのあぜに数頭戯れていたり、木かげで待っていると、どこからともなく、次から次へと舞ってまわりましたが、この日は晴れていたにもかかわらず風が強く、いつもひらひらと悠長に飛んでいる彼女たちが、かなりのスピードで目の前を通り過ぎて行くのです。途中、田んぼのおばあさんに、「あんた、何しとるがや？」と変な目で見られ、また、山菜売りの家族連れにもの珍しそうに、ながめられ、少々はすかしい思いをしなげらも、三角ケースを腰にネットをかかえた私は、田んぼを、畑をかけずり回り4箇2群を採集しました。少し山の方へ何かうと、ウスバシロは全く見られず、その他の蝶を若干、採集、目撃しました。

ミヤマセセリ 1♀
ツマギチョウ 3♂ 1♀
トラフシジミ 1♀

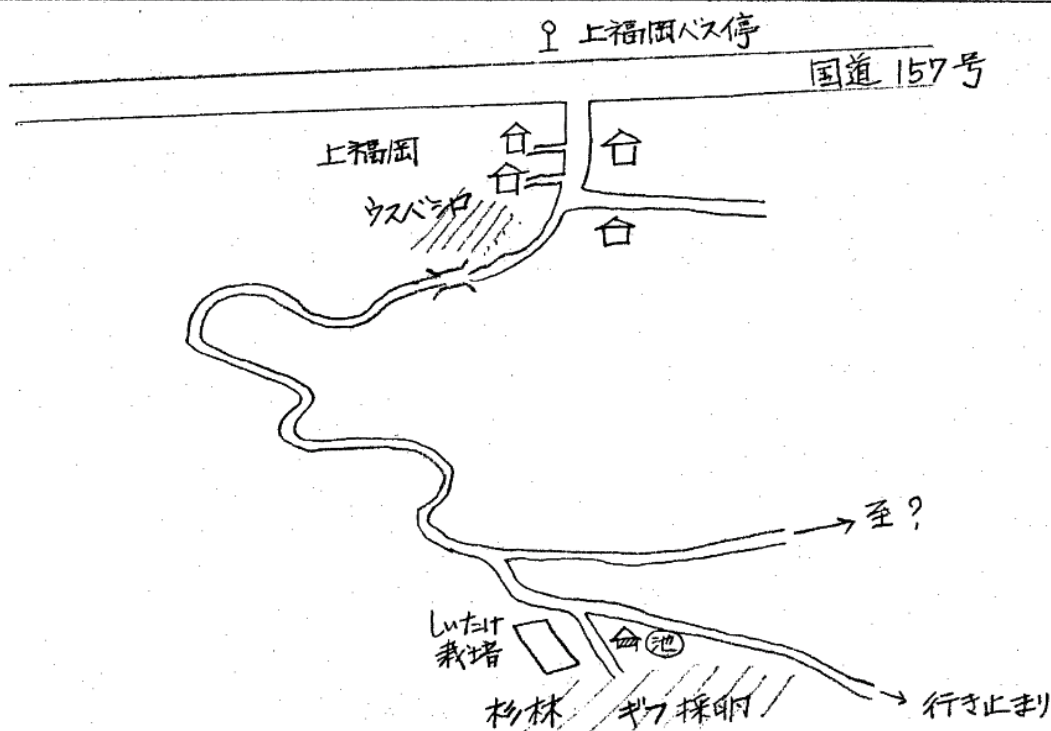
サカハチチョウ 多数目撃 1♀採集
スジグロシロチョウ 多数目撃
カラスアゲハ 1♂目撃

また、途中、何かピカピカ光る美しい虫が前へ前へと飛ぶのでネットに入れてみるとハンミョウでした。あまりきれいなので、持って帰ろうと思ったのですが、入れるものがなくて、手に持ってもたもたしていたら、あのするどい大あごでかみつかれてしまった――。

〔その2〕

1982年5月8日、ギフチョウの採卵に鶴来町上福岡へと何かったのですが、(詳しくは『汗まみれ……』に)この時、上福岡の人家の裏の畑のあとなどに、多数のウスバシロチョウを発見しました。

どっちを何いてもウスバシロといった感じで、運よく、回りにはだれも現れず、(はすかしい思いをしなくてすんだわあ――)彼女たちの、のんきな飛び方に歩調を合わせて、(もっとも、私は彼女たちより、ずっと、のんびり屋でうすのろなのですが……)ゆうゆうとネットを振れたのですが、ネットに入れたウスバシロを三角紙に入れようと、しゃがみこんでいると、その回りを仲間のこと



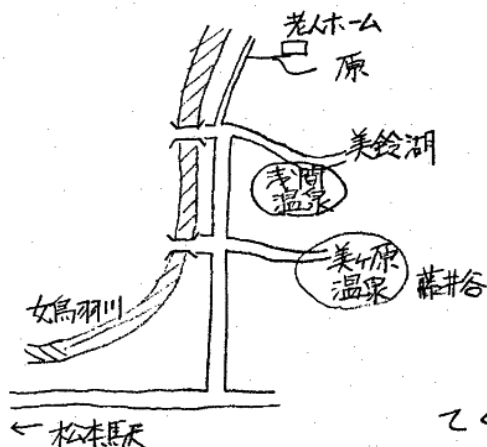
が心配でならないといった様子で3、4頭ひらひらとネットの中をのぞき込むみたいに舞って来るのです。なんか、かわいそーになってしまった——と言いつつも、それをまた、夢中で追いかけたのですけれども——。1688採集しました。

食草としては、そばにムラサキケマンがありました。

1981年度 採集手記より その1

松本市近郊にて

吉村 久貴



松本市の中心を流れている女鳥羽(めとば)川は、金沢でいうと、浅川の3/4位の中の川です。松本の冬の寒さの厳しさというのは有名ですが、何とこの女鳥羽川が氷りついてしまうことがあるそうです。女鳥羽川の東側に広がる台地が美ヶ原高原ですが、この美ヶ原のすそ野に有名な藤井台、原といった採集案内にも出てくる谷があります。1981年5月に、松本

のM氏のところに泊った際に、これらの地へ採集に行く機会がありました。

原(はら)

原の老人ホームの裏あたりにチョウのいそうな所が広がっていて、次の様な普通種が数種得られました。

1981. 5. 2

ヒメシロチョウ 1519

トラフシジミ 18

ツマキチョウ 18

ツバキシジミ 19

1981. 5. 4

コツバメ 388

ミヤマセセリ 4ex

ツマキチョウ 18

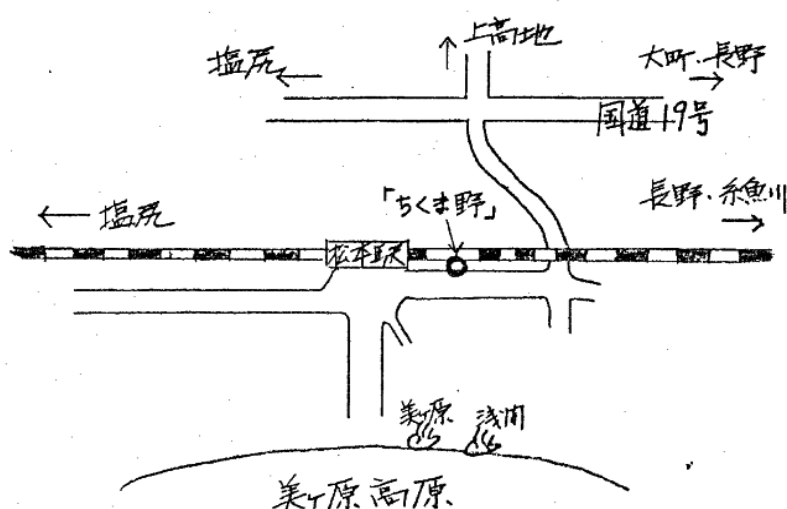
このうち、ヒメシロチョウは、食草と思われるクサフジの花に、ヒョウヒといたり、フワフワとゆっくりに飛んだりしていました。

藤井谷(ふじいたに)

藤井谷には、以前ヒメギフも採れたし、アサマもいると聞いて足を踏み入れましたが、短時間であったこともあって、ほとんど何も得られませんでした。ただ、道沿いに、イボタとクロウメモドキが非常に多く、ウラゴマダラ幼lex(のちに1羽羽化)を採集しました。

また、この谷には、松本の採集者も数人来ていて、今でもヒメギフが採れるそう。

1981. 5. 4 ウラゴマダラシジミ幼 lex



最後に、余談ですが、松本駅前の道を左へ100m程行った所に、「ちくま野」というイワナ専門の小料理屋があり、非常にうまい。

お奨めは、イワナの生造りの刺身のあとに、身の少しついた骨をみどりかけ(フライにして24種の野菜をすって作ったソ

ースをかけたもの)にしてもらったもので、一匹のイワナの値段で2種の味覚が楽しめます。定食で2,300円ぐらい。おいしい信州のソバもやっています。松本に寄ることがあったら、一度、足を運んでみたら。日曜日が休みの時が多い。

《会員の動き・しやばの動き》

◆学会・研修会にやむ。10月1日より2日間の日程で、日本昆虫学会第42回大会が金沢大学会場に開催された。全国約270名のその道の研究者が集まり、約100本の研究発表があったと聞く。

大会会長に大串龍一(金大理学部教授、事務局長)に富樫一三(石川大教授)が務め、盛会であった由、石川県からは富樫一三、松本和香、江口元章、富樫一三等の名氏より研究発表があった。

蝶類学会の杉繁郎氏の姿もあたりく、もし早くにわかれれば編集人も一度お目にかけられた。

◆新書や図鑑類の発行が目出度し、とくに24号にも少くも1冊が、またまた図鑑の新しいものが発行された。日本蝶類生態図鑑(保育社)で、4分冊のうちの1巻、アゲハチョウ科。定価4300円で最近のものとしてはお手頃品。その他日本産蝶類大図鑑(講談社、56000円)も発行されており、こちらは大型玉品。

◆新編集人は、職場での組合役員を任せられこの先一年間赤旗振りに専念するとのこと。とくに^{「共産党」とはムンケイ}、きつても新編集人という時局的余裕が得るので、今31号よりペン名を吉村久貴氏に替えることになった。4のキチホク(野中勝さん、取はヨロシク)。

目 次

片貝川南又谷にてアサマシジミを確認	松井正人・野中 勝	1
蛭たかオオミドリ	野中 勝	2
群馬県角間山でアサマモンキチョウを確認	吉村久貴	3
アサミレ、泥アサミレのカンアオイ採集	若下泰子	3
憧れのブッドレア	竹谷宏二	4
フジミドリ採集記	松田俊郎	5
ウスバシロチョウ採集記 4の1、4の2	若下泰子	7
1981年度採集手記より 4の1 松本市近郊にて	吉村久貴	8

期 号 31

1982年10月8日(金)

発行: 金沢市三日新町 4-9-33 松井正人方 百軒石蝶談会

校正・編集: 吉村久貴・嵯峨井俊郎